

【様式】

2019年度 学校マネジメントシート

学校名 (三重県立朝明高等学校)

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		「社会に貢献できる人間へー自分づくりの三年間ー」をテーマとして、「時を守り、場を清め、礼を正す」の教育指針のもと、生徒が成長する学校
(2)	育みたい 児童生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が卒業後も含め、目標を持って学校生活を送っている。 ・命を尊び、人権尊重の意識や態度が育つとともに、自己肯定感や自尊感情を持ちながら、自分と他者の人権を守るための実践行動ができています。 ・「社会人基礎力」を身につけ、礼儀を重んじ、社会規範の遵守・挨拶の励行・正しい言葉遣いが徹底できている。 ・基礎学力をはじめ、思考の習慣と判断力、コミュニケーション能力が身についている。
	ありたい 教職員像	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の基礎学力の定着及び学習意欲の向上を図るため、教職員全員が常に主体的・対話的で深い学びを目指した「授業改善」に取り組んでいる。 ・教育相談及び特別支援教育等が充実し、個に応じた指導並びに支援体制が整備されている。 ・各教科や分掌において、「生き抜く力」をはぐくむため、「考える力」や「判断する力」、「表現する力」などに対する具体的な教育活動の方針が明示されている。

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		<p>生徒：自己肯定感や自尊感情を持ち、自らの成長を実感して、進路希望が実現する。</p> <p>保護者：安全・安心して学べる学校であり、心身ともに健全な子どもの育成が図られている。</p> <p>地域社会：卒業までの粘り強い支援と、卒業後、社会を生き抜く力をつけている。</p> <p>進路先：社会人基礎力を始めとする人間力の向上に係る教育が行われている。</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待		連携する相手への要望・期待
	<p>保幼小中学校：発達段階に応じた学びの連携と協力。</p> <p>保護者：学ぶ力・心の力・体の力の育成と希望する進路の実現。</p> <p>地域社会：地域経済や自治活動の中心となる人材の育成。</p> <p>卒業生：母校に誇りを持ち、同窓生としての情報交換の場。</p>		<p>保幼小中学校：継続的・体系的なキャリア教育に係る連携。</p> <p>保護者：社会の一構成員としての自覚確立のための連携。</p> <p>地域社会：生徒支援及び社会人マナー向上の支援。</p> <p>卒業生：情報提供及び人的・経済的な支援(就職先等)。</p>
(3) 前年度の学校関係者評価等		<ul style="list-style-type: none"> ・校外での生徒の活動の姿に良い評価を頂いた。社会に通用する力をつけていくために目的を明確にし、行動に価値付けができるようにはたらかかけていく必要がある。 ・教職員が模範となって人権感覚を示し、温かい言葉がけや他人のために動くことの喜びなどが人間関係作りにおいて重要であることをもっと強く伝えていく必要がある。 	
(4) 現状と課題	教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣・挨拶が身につけている生徒が増えてきている。 ・自己肯定感や自尊感情が弱く、自分の生き方や目標を考えられない生徒が多い。 ・基礎学力の定着が不十分な生徒もいる。 ・主体的・対話的で深い学びを目指して授業力の向上を図るとともに、学習の目的や狙いをより明確に提示する必要がある。 	
	学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ・各生徒の良さを伸ばし、苦手意識を克服できるよう支援する体制が整っている。 ・生徒や保護者、地域などの意見や要望を把握し、教員同士が対話を進めながら問題を解決し、課題の実現に向けての行動を組織的に行うことができる。さらに成果をあげるために、「情報の共有」や「経験の伝承」を進めていくための場を充実させる必要がある。 ・保護者や地域と一層の連携を図るとともに、学校の改革の様子や生徒の活動の様子を積極的に外部にPRする必要がある。 	

3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての生徒が社会で自信を持って活躍できるよう、福祉教育や部活動を通じた人間作り等の本校の強みとする教育を一層推進し、学校の特色化・魅力化を図る。社会を生き抜く力を育み、社会で自立・共生できるようになるため、基礎的な知識や技術を身につけ、その知識や技術を実生活で活用できるようにする。また、人権教育の充実を図り、生徒一人ひとりが命を尊び、自己肯定感や自尊感情を持つことができるよう人権尊重の意識や態度を育てる。
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ・教師自身が自己の教育力の向上を目指し、授業研究・公開授業・指導法の改善を積極的に行い、学校組織としての教育力を高められるよう「授業改善」の取り組みを進める。 ・規範意識の醸成、基本的生活習慣の確立を基盤とした生徒の指導・支援を徹底することにより、地域から信頼される学校づくりを推進する。 ・教職員が「やりがい」や「満足感」を感じながら生き生きと働くことができるよう、総勤務時間数削減等の取組を推進する。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
【学習指導】	(1)各教科で、具体的な教育活動の方針を明示 …つきたい力(目標)の明示 → 学期ごとに1回、年3回 (2)わかる授業の徹底、教員の授業力の向上 …授業公開を行い教員自身の「気づき」を促す →授業見学週間の実施と振り返り研修会の開催 (3)安心して学べるクラス作り…状況に応じて学年毎にQUを実施 →分析会・研修会の実施	(1)シラバスの作成を通じて明示、確認している。 (2)授業見学週間、振り返り研修会各1回実施 (3)1、3年生でQU実施	※
【規範意識】	(1)生活規範、授業規律の確立…服装マナー・授業マナー・ベル席の徹底 → 生徒アンケート(達成度 97%以上) (2)基本的生活習慣の確立…遅刻・早退・欠席数の減少 → 昨年度より 10%以上減 (3)環境美化への意識向上 → 生徒アンケート(達成度 85%以上)	(1)服装・マナーについてはできているが、ベル席は徹底できていない。 (2)遅刻早退についてはほぼ横ばい。	◎
【人権教育】	(1)命の大切さを理解したうえで、自分の人権や他者の人権を守り、人を想いやることのできる生徒を育てる…人権意識を高める活動をする。 (2)教員が願いや思いを伝える場面を増やす → 人権講演会、人権LHR、の開催	(1)地域の取組である人権標語と人権メッセージに参加。 (2)人権LHR: 学年毎の課題学習、人権講演会: 「言葉の重みについて」	◎
【キャリア教育】	(1)社会で自立し共生することができるように生き抜く力を育む…卒業後の生き方に対する指導を日常的に行う → 離職を減らす (2)自分の将来に価値を見出し、目標を持たせる…課題に対し考え抜き行動できるようにする → キャリア教育にかかわる行事を年間 10 回以上実施	(1)離職: 15 人(昨年度 10 人)で増加傾向。 (2)1年: 4回、2年: 9回、3年: 8回、計 21 回実施済	
【保健管理】	(1)自らの健康のために適切な行動をとれる力を養う。 …歯と口腔の健康づくりの充実 → 要治療者の受診率 50%以上	(1)受診率: 8.6%	

改善課題

生徒会を中心に「ピンクリボン運動」などの主体的な活動や「四日市市高校生議会」「三重県いじめ防止サミット」等校外の活動への積極的な参加など、校外で自己肯定感を高めることができる生徒が増えた。一方で、人の気持ちに立って考えることができない生徒や自己中心的な考え方をしてしまう生徒も多い。生徒が活躍できる場や認められる場をさらに増やして自己肯定感の向上に繋げたい。

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
【組織運営】	(1)各分掌間での情報共有の強化…定期的な情報配信とミーティングを実施する (2)教員の目的意識の共有化 …オフサイトミーティングの実施 ➡年1回以上実施	(1)企画委員会・学年主任ミーティングで情報共有 (2)夏季休業中にオフサイトミーティング実施	◎
【資質向上】	(1)教員の学びの機会を増やす …目標は課題を見つけることが出来る研修を通して教員の資質向上を目指す …参加率の向上、80%以上	(1)AKT 研修会、授業改善研修会、いじめ研修会、コンプライアンス研修、インターンシップ校内研修会等。参加率約70%	
【キャリア教育】	(1)学校の取組としてのキャリア教育を充実する ➡全教員、各分掌、各教科の想いを取り入れたプログラムの改善	(1)プログラムの見直し・改善実施	
【地域社会との連携】	(1)朝明高校の良いところ生徒の様子を知ってもらう。 …広報活動の強化 ➡ 中学校訪問回数増、体験入学の実施 (2)意見交換会などの設定 …保護者会、授業公開などの実施 ➡ 年1回以上	(1)体験入学、ふくし科の出前授業実施。学年・学級通信の積極的な発行。 (2)実施した。	
【教職員の働きやすい環境づくり】	【教職員の働きやすい環境づくり】 (1)総勤務時間の縮減に向けた取組 ①時間外労働時間：前年比5%（1時間/月）削減＝月平均20.3時間以下、 ②月80時間超の時間外労働人数：50%削減＝19人/年、③休暇取得日数：年1日増＝19日/年、④定時退校日：月1日以上設定・定時退校実施率80%以上、⑤会議時間の短縮：60分以内の放課後開催会議の割合85%以上、⑥部活動休養日：週1日以上 (2)信頼される学校づくり …①「信頼される学校であるための行動計画」の実施、②コンプライアンス・リスクマネジメント研修の開催：年3回以上	(1)①18.7時間 ②19人 ③16.3日 ④83.0% ⑤65.2% ⑥100% (2)①計画通り実施 ②3回開催（6、10、2月）	※

改善課題

中学校説明会では体験授業実施のほか、総務委員による受付・校内案内や各学科の生徒による授業補助などを取り入れた。地域の行事への積極的な参加や出前授業も実施し、学校の広報活動に努めた。研修も AKT や授業改善チームが主体的に企画したが、参加率が目標を下回っているため、日時の設定や目的・内容の明確化等、参加しやすい参加したくなる研修への改善を検討していきたい。

5 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	地域、校外で生徒の活躍する姿にお褒めの言葉をいただいた。地域や中学生に向けたがんばる生徒の姿の発信をもっと強化する必要がある。AKT や授業改善チームの活動など教職員の主体的な改善活動を強みとして、生徒の模範となる活動の継続を期待する。
---------------------	--

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	・生徒の学力向上に向けた授業改善や自己肯定感の向上につながる取組を強化する。 ・人権学習だけでなく LHR や授業等すべての教育活動を通じて、言葉の大切さやコミュニケーション力の向上に取り組み、自分も周りも大切にできる生徒を育てる。
学校運営についての改善策	・地域行事へのさらなる参画、出前授業等の推進、マスコミ等への積極的な情報発信等、本校の魅力を地域や中学生に発信する取組を強化する。 ・研修のあり方や内容を見直し、参加しやすい参加したくなる研修を設定する。 ・スクールサポートスタッフの活用を研究し、働き方改革につなげる。

